監事に就任して

株式会社テクノ長谷
長谷　裕

令和７年５月より、株式会社サトー技建社長 加藤一也氏の後任として、東北地質調査業協会の監事に就任いたしました株式会社テクノ長谷の長谷裕です。

東北地方における震災復興の早期実現や多発する自然災害への対応、公共施設などの老朽化対策や土壌・地下水汚染問題など地質調査業が果たす役割はこれまで以上に重要になってきています。協会員皆様とともに、本協会の発展および地質調査業の様々な課題への取り組みに、微力ではございますが貢献して参りたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

私は、昭和32年に仙台で生まれました。大学を卒業後、創業者である父親が立ち上げた長谷地質調査事務所（現在テクノ長谷）に昭和57年に入社し、３か月後には青森営業所の調査課、昭和59年４月に本社技術部、昭和61年４月に営業部、平成３年に総務部経理課、平成５年12月に取締役、平成13年に副社長と、現場から経営まで幅広く経験を重ねてまいりました。現在は代表取締役として会社を率いる立場となり、父が切り拓いてきた道を次世代へとつないでいく責任を日々実感しております。

父は150年以上の歴史を有する和裁学校の３代目として学校運営に携わる一方、大学では地質学を研究し、その知見をもとに地質調査会社を創業しました。長らく学園の理事長と会社の社長という二足の草鞋を履きながら人材育成と社会基盤を支える仕事の双方に情熱を注いできました。現在私自身も二つの役割を担う立場となり、父の背中を思い起こすことが少なくありません。

また私と父は偶然にも同じ高校の出身であり、父はその１期生でした。こうした不思議な縁の積み重ねのなかで、地質という分野、そして人とのつながりが、世代を超えて受け継がれてきたのだと感じています。

私事ですが、28年前に広報委員の一委員として、この協会誌『大地』の編集・発行に携わっていました。その「大地」の題字は父親が揮毫したものであり、さらに私の長男の名も、ここから着想を得て名付けました。「大地」という言葉には、すべてを支え未来へと続いていく基盤でありたいという願いが込められているように思います。

以上がこれまでの仕事の歩みとともに、仕事と人生が重なり合ってきた経歴となります。東北地質調査業協会および賛助会の会員の皆様の地域の発展を支えるべく会員の皆様に満足して頂けるような活動を行って行きたいと考えておりますので、皆様のご支援・ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。